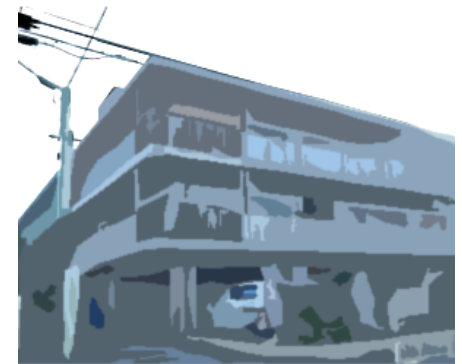




# 本気の避難訓練

～犠牲者ゼロを目指した垂直避難誘導～

社会福祉法人 奉優会  
特別養護老人ホーム等々力の家  
多和田 真吾



# なぜ「本気の避難訓練」が必要か

実際の災害では想定外の事態が発生するため、形式的ではなく実状に即した「**本気の訓練**」が緊急対応力を向上させます。特に福祉施設では、利用者一人ひとりの特性に合わせた避難方法の確立が命を守る鍵となります。

# 利用者の状態に応じた避難方法

## 歩行可能な利用者（6名）



- ✓ 介助者は誘導と安全確認に専念
- ✓ 認知症の場合は混乱防止サポート
- ✓ 階段では手すり使用を促し、必要に応じて支える

### ⚠ 注意点

パニック防止のため落ち着いた声掛けを行う。状況に応じて車椅子で移動する。

## 車椅子利用者（21名）



- ✓ 水平避難は車椅子で迅速に
- ✓ 担架への移乗は2人介助で慎重に
- ✓ 階段移動は4人介助で慎重に
- ✓ 移乗介助は慣れておくことが重要

### ⚠ 注意点

移乗介助に時間を要するため、事前に練習・訓練が必須。

## 寝たきり利用者（3名）



- ✓ 同フロア内の防火区画を越えた安全エリアへ移動
- ✓ 避難経路に物が置かれていないか日常的に確認
- ✓ ストレッチャーやベッドごと移動

### ⚠ 注意点

避難に最も時間を要するため、避難開始の判断を早めに行う。

## 📋 事前準備の徹底

参加者全員の役割を明確化し、責任者・担当者を事前に決定することが重要

## 👤 避難経路の優先順位

複数の階段を活用し、火元からの距離や介助のしやすさで優先順位を決定

## 🗣️ 円滑な情報伝達

インカム、館内放送を活用し、迅速かつ正確な情報共有を図る

## 👤✓ 避難完了の確認

避難者数の正確なカウントと居室の最終確認を徹底する

# 避難計画の改善ポイント



## 1. 動線の最適化



### 交通整理係の配置

階段や出入口など混雑ポイントに誘導員を配置。スムーズな流れを確保



### 複数経路の活用

訓練で得られたデータを基に、階段の使用順序を最適化



### 経路上の障害物除去

日常からの整理整頓の徹底と、廊下スペースの確保



### 中間待機スペースの設置

階段付近に車椅子待機場所を設け、移乗介助のスムーズ化



## 2. 人員配置の見直し

夜間想定で最小人数での役割分担を明確化  
居室ごとの担当者を事前に決定し、混乱防止  
近隣施設や町会との協力体制の構築



## 3. 時間短縮のための工夫

車椅子⇔担架の移乗技術向上のトレーニング  
声掛け・指示の標準化と簡素化  
定期的なタイムトライアル訓練の実施



## 4. 優先順位の明確化

火災の場合は火元に近い居室を最優先  
避難に時間を要する利用者の早期避難開始  
個別避難計画の作成と定期的な見直し



# まとめ 継続的な訓練の重要性

## 「本気の避難訓練」が命を守る

形式的な訓練では実際の災害には対応できません。  
緊迫した状況下でも的確な行動ができる「本気の訓練」が必要です



### PDCAサイクルの実践

訓練は「計画→実施→評価→改善」のPDCAサイクルを継続的に繰り返すことで効果を発揮し、データに基づいた具体的改善により実効性が高まります。



### 身体で覚える反復訓練

マニュアルを読むだけでは不十分で、定期的な反復訓練を通じて緊急時に咄嗟に行動できる「身体で覚えた対応力」の習得が必要です。



### 多様なシナリオ設定

火災、水害、地震など災害の種類や、夜間・休日発生など様々な条件を想定した訓練を行うことで、どんな状況にも対応できる応用力を養います。



### 地域・関係機関との連携

高齢者施設は単独避難に限界があるため、地域住民や近隣施設、消防・行政機関との合同訓練を通じて災害時の連携体制を事前に構築することが重要です。